

# 「学力向上」研究 美術科指導案

平成18年 月 日( )第1校時  
年組 名(男子 名 女子 名)  
指導者 青木 孝浩

## 1. 題材名 鑑賞文の書き方を身に付けよう

### 2. 題材の目標

- (1) 鑑賞の仕方や感想の書き方が分かることで、作品を鑑賞することに抵抗が少なくなり、鑑賞への苦手意識を無くすことができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 自分で考えたり、友だちの意見を参考にしたりしながら、色の見方や感じ方についてのイメージを広げていき、鑑賞の表現力を身に付け、鑑賞文を書くことができる。(鑑賞の能力)

### 3. 鑑賞における生徒の実態と授業改善への基本的な考え方

教科の特性もあり、表現(つまり制作)活動には意欲を持って取り組むことができる生徒が多い。この学年の特徴は、発想力が豊かで、個性的な作品を多く制作することができることである。前向きに取り組む生徒が多いが、授業で最も個人間の差を感じたのが、鑑賞の際に感想などを書かせたときの語彙力の差であった。そんな抵抗からか、鑑賞の授業では、題材にもよるが、表現の授業ほどの意欲を感じないことが多い。語彙力があり、文章構成力もある生徒は、感想なども上手に書けるが、本当にそう思っているか、という点については微妙なところもある。反対に、語彙力がなく、文章を書くことに自信のない生徒は、一言感想ぐらいで終わってしまっていることが多い。しかし、書けていないから、作品を見て何も感じていない、という訳ではなく、机間指導で言葉をかけると、言葉で返すことはできる生徒も多い。以上のことから、鑑賞についての基礎力の不足を補うための授業として、今回の授業を位置づけた。

また、鑑賞の授業での改善点として、

**今回のような表現力を高める授業を積極的に取り入れる。**

**できるだけ多くの友だちの意見を聞かせ、多様な考えに共感しながら鑑賞できるようにする。**

**作品をじっくりと観察する時間を与える。**

**生徒の興味関心と、意図するねらいが合致する鑑賞物の選択を工夫する。**

**鑑賞を通して身に付く力を具体的に示す。**

などが考えられる。

### 4. 本時における基礎・基本のとらえ方(視点1)

鑑賞における作品の鑑賞の視点にはおよそ次のようなものがある。

色や構図、筆遣い(タッチ)といった技法的な要素から作者の心情にせまる視点

作者の生い立ちや時代背景から作品の意味やメッセージを読み解く視点

作品の中に表現されている、モノや形に着目して自分なりの解釈を作り上げる視点

作品と社会との関連性を考えながら読み解く視点

この中で、今回は の中で特に「色」に絞って、鑑賞文の書き方を練習する。生徒が鑑賞しようとするとき、直感的に見られる の視点が最も基本的であり、普段の表現の授業にも生かすことができるため取り上げてみた。ただし、「作者の心情にせまる」ところまで考察するのは、やや応用的ニュアンスが強いので、無理に書かせることは避けた。

5. 学習意欲の観点（視点2）

スモールステップを踏みながら鑑賞文を完成させていく方法を取り入れる。

【成功への期待感】

多くの生徒の意見を互いに聞くことで、色についての見方や感じ方の多様性に気づかせる。

【知的な好奇心】

発表される意見を否定せず肯定し、褒めることで、自信を持たせる。【適切な賞罰】

他の人の意見を聞くことで、よりよい意見を出そうとする。

【競争】

6. 指導計画（1時間扱い）

本時：色を中心に鑑賞した鑑賞文が書けるようになる。

7. 本時の指導

(1) 題目 上記の通り

(2) 目標 上記の通り

(3) 展開

生徒指導上の留意点

人権教育上の配慮

学 習 活 動	活動への支援と評価	研究の視点	
		基礎・基本	学習意欲
1. 本時のねらい、学習内容を確認する。	・ 何のために行う内容なのかをきちんと伝える。		
2. 色紙を見て、感じたことを学習プリントに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習なので、ヒントを多めに与える。</li> <li>・ 文章で表現しにくい場合は、短い言葉で箇条書きでよいことを告げる。</li> <li>・ 発表された意見を中傷することのないように、肯定的に受け止めさせる。</li> <li>・ 発表に慣れさせるため、ここでは全員発表を行う。</li> <li>・ 自由な発想で書けるようアドバイスしながら机間巡視を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色の表現の仕方が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成功への期待感</li> <li>・ 知的な好奇心</li> <li>・ 適切な賞罰</li> <li>・ 競争による意欲の向上</li> </ul>
3. ポスターの作品を見て、学習プリントの鑑賞文を完成させ、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は、色を中心に鑑賞することを告げる。</li> <li>・ 力のある生徒には、色から見える作者の心情に迫る文を書いてもよいことを告げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色を中心とした鑑賞文の書き方が分かる。</li> </ul>	

学 習 活 動	活動への支援と評価	研究の視点	
		基礎・基本	学習意欲
<p><b>&lt;具体的な評価規準：鑑賞の能力&gt;</b>            自分で考えたり，友だちの意見を参考にしたりしながら，色の見方や感じ方についてのイメージを広げていき，鑑賞の表現力を身に付け，鑑賞文を書くことができる。</p> <p><b>&lt;評価基準&gt;</b>            A：次の視点を取り入れた色から感じる印象を含めた鑑賞文が書けている。            ・感情 ・温度 ・質感 ・物にたとえて ・季節感            ・味覚 ・時間 などのキーワードが入る。            B：学習プリントに従った鑑賞文が一通り書けている。            C：何も書けていない。または書こうとしない。</p> <p><b>C 評価に対する支援</b>            机間指導の際に，具体的な視点でヒントを伝えながら，まず口に出して言わせてみてから書かせる。</p>			
<p>4．資料集から好きな作品を選んで鑑賞文を完成させる。</p> <p>5．本時の振り返り（自己評価）をする。</p>	<p>・時間があれば，数名に発表させる。</p> <p>・色以外により多くの視点から書ける生徒には，書かせてみる。</p> <p>・今後の鑑賞に活かしていくことを告げ，意欲を持たせる。</p>	<p>・色を中心に見た自分なりの鑑賞文が書けるようになる。</p>	

(4) 板書計画

<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>色紙や ポスターを 貼るスペース</p> </div>	<p>鑑賞文をつくらう</p> <p>色を中心に試してみよう</p> <p>・どんな物？ 気持ち？ 温度？ 季節？ 味？ 時間？ など</p>
---	---